

(第3種郵便物認可)

2014年(平成26年)5月30日(金曜日)

狭山事件 石川さんの今

1963年に埼玉県狭山市で女子高校生が殺害された「狭山事件」で無期懲役が確定し、再審請求を続ける石川一雄さん(75)の日常を追ったドキュメンタリー映画「SAYAMA」みえない手錠をはずすまで」が完成し、31日から中野区東中野の「ポレポレ東中野」で劇場公開が始まる。映画は、武蔵野市在住の映画監督金聖雄さん(50)が写真が、仮釈放後に結婚した早智子さん(67)と寄り添いながら日々を生き抜く石川さんの姿を収めた。



事件は63年5月に発生。石川さんは当時16歳の女子高校生を殺害した強盗殺人罪などで77年に無期懲役が確定。94年に仮釈放後も「冤罪」を訴え、現在は第3次再審請求中となっている。金監督は2010年、人権ビデオの制作で石川さんと初めて出会った。インタビューで「我が人生に悔い



石川一雄さん(手前)と早智子さんの日常を描く映画の一場面©映画『SAYAMA』製作委員会

なし」と語る石川さんの言葉に「殺人犯というレッテルを背負い、何でそんなことが言えるのか」と感じた。気配りを見せる早智子さんの姿も印象に残った。「事件の検証ではなく、人

記録映画 あすから中野で

間石川一雄』を撮らせてほしい」。金監督は石川さんに頼み、事件発生から50年を迎えた13年までの約3年間を追った。

105分間に編集した映画では、石川さんのジョギング姿、夫婦で何気ない会話を交わす食事、早智子さんの郷里に帰省して休息する場面といった日常生活が描かれる。裁判所前で無実を訴える様子や再審無罪となった冤罪被害者との交流も収められている。

金監督は「夫婦の生きざまから、幸せや友情、正義とは何かと考えずにはいられないかった。事件が風化する中、若い世代にも見てほしい」と話している。

初日の上映後、ポレポレ東中野で石川さん夫婦と金監督が舞台あいさつする。問い合わせは映画「SAYAMA」製作委員会(042・316・5882)へ。